

0・4%支援事業に投票を

本年度の市民公益活動団体支援事業「0・4（オーシユウ）%支援事業」の投票が始まります。この事業は、社会的課題の解決や、より良い市民生活の実現を目的に、NPO法人やボランティア団体などが実施する事業を、市民の皆さんが投票を通じて応援する制度です。あなたの1票が「協働のまちづくり」の実現につながります。ぜひ投票をお願いします。

この事業は、市民税の0・4割相当額を補助金として、市民公益活動団体の事業へ交付するものです。補助金の額は「基礎額」と、投票による「投票額」の2種類によって決定します。

選出数は最大3事業まで

1世帯当たりの選出数は、昨年と同様、最大3事業までとなります。補助金額は1世帯ごとの選出数で異なり、1票の場合は600円、2票の場合は300円、3票の場合は200円がそれぞれ投票額として補助金に反映されます。本号と併せて、支援対象団

所4階）、各総合支所総務企画課、各地区センター
■受付時間 午前9時～午後5時（王国図を除く）
出前説明・投票会の実施
市は、地域の集会などに職員が出向き、事業の目的などについて説明を行う場、投票を行う場として「出前説明・投票会」を実施します。ぜひ

ご活用ください。
■対象 おおむね10人以上が集まる会議、集会など
■時間 30分程度
■申込期限 開催を希望する日の5日前まで
■問い合わせ・申込先 本庁まちづくり推進課市民活動係（江刺総合支所内線322）

公開プレゼンテーションを開催

支援対象団体の皆さんが事業内容を発表します。発表を聞いて、その場で投票することもできます。投票用紙を持ってご参加ください。

- 日時 4月20日（土）午後1時半～5時
- 会場 市民活動支援センター会議室（メイプル地下1階）
- 問い合わせ 本庁まちづくり推進課市民活動係（江刺総合支所内線322）



食の匠・渡邊貞子さんが農林水産大臣賞

農山漁村女性・シニア活動表彰

「岩手県食の匠」として知られる胆沢区若柳の渡邊貞子さん（84）が、農山漁村女性・シニア活動表彰で、最優秀賞（農林水産大臣賞）に輝きました。長年の「郷土食伝承活動」が評価されたものです。平成2年、62歳で開店したすいとん専門店「おふくろ」が、郷土の食文化発信の拠点となりました。郷土食のレシピ集の自費出版や自宅を改修しての料理教室など、郷土食の伝承に取り組んでいます。貞子さんは「普通のことをしただけ。これからも楽しみながら活動を続けていきたい。生涯現役を目指します」と謙遜しながらも今後の活動に意欲を見せていました。

結 -ゆい-

～ 30の地区振興会による協働のまちづくり実践事例 ～

特色のある地区振興会の事業を紹介するこのコーナー。シリーズ12回目は、江刺区の藤里振興会を紹介します。

藤里地区は江刺区のほぼ真ん中に位置し、四方を岩谷堂田原、伊手、玉里と接しています。国道397号が地区内を走り、種山高原や大船渡へ向かう際には多くの人が通るところです。丘陵地帯の間を伊手川、浅井川が流れ、地形的には盆地状の平地となっています。

藤里振興会は、昭和42年4月、教育・文化・産業・経済の振興、社会福祉の向上に寄与することを目的に、自主的に創設されました。旧江刺市内では先駆的な事例の一つとなっています。平成16年からの地区センター化に伴い、17年4月に新たな体制を構築。現在も続く、①総務②社会福祉③環境保健④生活安全⑤体育振興⑥生涯学習⑦婦人⑧老年——の8部で各種事業を展開しています。その中から、特徴的な事業を紹介します。

■観光資源PR事業

藤里地区には、国の重要文化財「木造兜跋毘沙門天立像」



地区センター前の看板（両面）

また、藤里地区センター脇の県道岩谷堂岩明線沿いに大型看板1基を設置し、道行く人に代表的な観光名所をPRしています。

同振興会では、これらの観光資源をPRするため、藤里史談会と共同で名所旧跡等案内ガイドマップ「ふじさとの歴史」を発行し、全世帯に配布すると共に観光客などに配布しています。



愛宕山自然公園

今後は、愛宕山自然公園内にある「藤里の珪化木」付近の遊歩道を5カ年計画で整備する予定です。河東田正幸振興会長は「平泉の世界遺産登録をきっかけに多くの人に来ていただきたい。1500万年前のセコイアメスキの珪化木もぜひ見てほしい」と語ります。

■「地域に読書の輪を広げよう」事業

もともと読書活動が盛んな同地区では、藤里小学校や行政区との連携により、振興会文庫を開設しています。地区教育振興会の活動を継承している生涯学習部による事業で、小学校が事務局となって展開。同地区振興会が



振興会文庫を利用する子どもたち



ガイドマップ

購入した約200冊の図書を各行政区に配り、1カ月ごとに巡回させるものです。開設場所は行政区によって異なり、集会所や分館、世話人の自宅などにあります。地域ぐるみで、身近に多くの本を利用できる環境づくりを推進する取り組みです。

藤里小学校では、朝読書の取り組みや、週2回の音読を行っており、同事業を展開することによる相乗効果も期待しています。